

角田 亘 編 北原崇真, 佐藤 慎, 岩戸健一郎, 中嶋杏子 編集協力
回復期リハビリテーション病棟マニュアル

原 寛美 (公益社団法人山梨勤労者医療協会石和共立病院リハビリテーション科ニュー
ロリハビリテーションセンター)

2000 年から保険医療制度上新設された回復期リハビリテーション病棟 (CRW: convalescent rehabilitation ward) は, 現在全国で約 2000 病院, 総ベッド数 8 万床に及んでいる。急性期治療を終了した患者に対して, その後の機能回復と ADL の自立, さらに自宅復帰, 復職などを目標とした入院リハビリテーション医療を提供する重要な制度的枠組みである。CRW はわが国の医療上で不可欠なシステムとなっている。本書は, その CRW 医療を担うチームをなす, リハビリテーション科専門医, 看護師, 理学療法士, 作業療法士, 言語聴覚士, 薬剤師, 医療ソーシャルワーカーなどに向けて上梓された, 総論と専門的各論を俯瞰したマニュアルである。

CRW の医療では, 急性期治療を終えた時期といっても, 亜急性期での転院となるケースもあり, さらに基礎疾患や併存疾患の診断と治療が多くの場合に必要とされる。そのために, 各種検体検査と画像診断, 超音波診断, 嚥下障害に対する VE/VF 検査などの検査は必須となることから, それらに対応できるハードの整備と医療が求められる。加えて, リハビリテーション医療で汎用されている各種評価法 (疾患別重症度評価, 運動機能や高次脳機能検査,

ADL 評価, 栄養状態管理評価など) に習熟していること, またリハビリテーション訓練と治療の知識も必要となる。本書では CRW の対象となる疾患と訓練の概要とともに, CRW の看護とケア, 栄養管理, 薬剤管理, 合併症管理, 退院後のリハビリテーション医療を継続させていく準備などについて網羅されている。さらに, 多職種がそれぞれの専門性を存分に発揮できるよう, チーム医療としてのアプローチ方法についても言及されている。

本書は総勢 48 名の (主に) 国際医療福祉大市川病院のスタッフにより分担執筆された力作である。編者の角田亘先生は, 脳卒中医療における反復性経頭蓋磁気刺激治療 (rTMS) に関する執筆論文が数多く, わが国におけるニューロリハビリテーション医療の旗手でもある。学会のプレゼンテーションでは, いつも卓越した語学力と review 能力を駆使し, キャリアアップのための新しい知見を提供してくれている。氏の指導の下で, さらにバージョンアップされた書籍となることを期待してやまない。

(B6 変型・頁 424 2020 年 定価: 本体 3,400 円 + 税 [ISBN978-4-260-04247-5] 医学書院刊)